

2024年7月27日(土)
 主催: たまみずき高等学院(明蓬館SNEC朝霞)

「不登校や特別支援が必要な生徒が進学できる高校進学の話」

- 他の高校と何が違うのか?(入試・学習内容・支援体制・学費)
- 高校卒業後にどのような道が開けるのか?

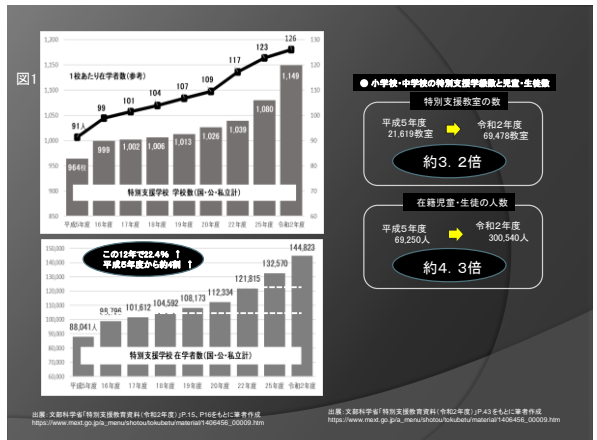
(一般社団法人)障がい児成長支援協会 代表理事・協会長
 中部学院大学 非常勤講師 山内康彦(学校心理士SV・ガイダンスカウンセラー)

まず考えておきたい 障害者手帳の種類と取得のメリット

- ①身体障害者手帳
 - ②療育手帳
 - ③精神障害者保健福祉手帳
- の3種類
 手帳の種類や障害の重さによって福祉サービスの内容が多少かわります
 〈手帳取得のメリット〉
 ◎様々な福祉サービスが受けられます 例えば・
 〈手帳取得のデメリット〉
 ▲残念ながら偏見や差別等を受けることがあります
 ▲保険の加入や資格・就労等で制限を受けることがあります。

特別支援が必要な子ども達の増加

- データ①
 小中学校の通常学級における発達障害の子ども
全国 8.8% (前回 6.5%)
 大幅に増加! コロナ2019流行が原因!
- データ②
 小中学校の通常学級における発達障害の子ども
 小学校 7人に1人 中学校 20人に1人
 ※更に、“保健室登校”などの予備軍も多数有



恐るべし! 特別支援教育の就職率

■特別支援学校高等部卒業者の就職率は・・・

全国 32.3%
 なんと3人に一人しか就職できていない!

これが現実!
 特別支援学校高等部へ行けば
 「就労先を見つけてくれる」とは限らない!

まずは、将来の出口を考えることが大切!
 →18歳のあとを考えて今の療育を行う

なぜ、「今が大切」と今ばかり見るのか?
 →毎年変わる担任、責任がもてない?
 <<まず18歳以降の三つの生き方を考える>>

- 1 手帳を使って「障害者」として生きていく
- 2 手帳をもたずに「健常者」として生きていく
- 3 1と2の合わせ技、手帳と学歴をもつ生き方

注意！

特別支援学校高等部は原則高卒資格なし

なぜ、特別支援学校は高卒資格がないのか？
→数Ⅰや現国・古文等の学習単位がないから！

《中3卒業後（15歳以降の生き方）を考える》

- 1 障害者として生きていく→特別支援学校
 - 2 健常者として生きていく→高等学校
 - 3 障害者手帳と学歴という生き方もある
- ※通信制の高等学校のような特別な高校もある！

通常の高校と特別な高校の違い

具体的な違いとしては・・・

- 1 入試の違い→「5科目テスト」と「内申点」
- 2 必要な出席日数がある→欠席が多いと留年
- 3 “2”以上の成績が必要→“1”は留年！
- 4 1クラス40人→個別・少人数指導はなし
- 5 96単位の必要単位→通信は少ない74単位
- 6 特別支援が専門の教員は、大変少ない
- 7 卒業後の進路は、基本的に自分で開拓
- 8 体育祭や文化祭、集会など苦手に行事がある
- 9 中3までの内容ができたものとして進む学習
- 10 学費の違い（※就学支援金等について）

通常の高校と特別な高校の違い

1 入試の違い→「5科目テスト」と「内申点」
【通常の高校（全日制）】

- ①国語・数学・理科・社会・英語の五教科の
合計点数500点
- ②国数理社英体美音家の全九科目の
内申点の合計

①と②の合計をメインにして合否を決める

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！
◎面接だけ ◎調査書だけ ◎3教科だけ等

通常の高校と特別な高校の違い

2 必要な出席日数がある→欠席が多いと留年
【通常の高校（全日制）】

- ・基本的に三分の二以上の出席が必要！
※医師の診断等、特別な場合でも二分の一以上
（最終的には、高校の学校長の判断！）

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！

- ◎通信制高校でも必要な出席授業はある
（例）年に数日のスクーリング
期末テスト等
※登校スタイルは学校によって様々

通常の高校と特別な高校の違い

3 “2”以上の成績が必要→“1”は留年！
【通常の高校（全日制）】

- 赤点をとると→補習再テスト
→それでも×なら留年になる？
※私立は、再々テスト等の配慮がある場合が有

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！
◎3年間で74単位をとればよい
基本的に留年という概念はない！
※一定の基準は必要なので確認する
（例）保健体育は毎年行う？

通常の高校と特別な高校の違い

4 1クラス40人→個別・少人数指導はなし
【通常の高校（全日制）】

- 中学までは35人学級？
高校からは基本40人学級に担任が1人
※少人数や個別の支援は基本ない！

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！
◎少人数や個別が基本のところが多い
※個別の場合に追加の授業料を徴収される
場合が多くあるので、事前に確認が必要

通常の高校と特別な高校の違い

5 96単位の必要単位→通信は少ない74単位
【通常の高校（全日制）】
必要のない教科まで余分に勉強して単位を取る
※国公立大学を受験できるようにするため
（センター試験で全教科受験する必要がある）

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！
◎文科省→74単位が高卒の最低単位
必要に応じておかわり？→+αで単位取得可能
※毎日の授業にゆとりができる

通常の高校と特別な高校の違い

6 特別支援が専門の教員は、大変少ない
【通常の高校（全日制）】
通常の高等学校の免許のみ
※特別支援学校専門の免許をもっている先生は
大変少ない→※特に高等学校にはいない

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！
◎学校によって様々
（例）明蓬館SNEC高等学校は、
専門の心理師（士）が常勤で働いており
生徒や保護者のフォローがバッチリ！

通常の高校と特別な高校の違い

7 卒業後の進路は、基本的に自分で開拓
【通常の高校（全日制）】
高校卒業資格は取得できるが・・・
※その後の進路は、基本“自己責任”

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！
◎学校によって様々
（例）大学に進学する場合→指定校推薦制度有
専門学校に進学している場合は？・・・
就労する場合は？・・・

通常の高校と特別な高校の違い

8 体育祭や文化祭、集会など苦手に行事がある
【通常の高校（全日制）】
特別活動や学校行事として、集団活動が多い
→これが苦手な子が多いが→基本、強制参加

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！
◎学校によって様々→通常の高校に比べて配慮有
◎必ず参加しなくてはいけないものも少ない
（例）体育実技→その子のできるもので・・・
見学等でも参加できるように配慮有

通常の高校と特別な高校の違い

9 中3までの内容ができたものとして進む学習
【通常の高校（全日制）】
いきなり“数I”や“現代国語”
できない？→塾へ行ってください。
家庭教師でもつけてください

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！
◎学校によって様々→小中のやりなおしをする？
（例）明蓬館SNEC高等学校は、
「高校数学入門」「高校英語入門」
「高校国語入門」の単位が高卒の単位に

通常の高校と特別な高校の違い

10 学費の違い（※就学支援金等について）
【通常の高校（全日制）】
◎公立は基本、授業料が無料→国等の補助
◎私立も昔に比べてとても安い→国等の補助

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！
◎国からの就学支援金が有（収入によって変化）
（例）たまみずき高等学院は、
※さらに特別な割引制度があります
→まずは、問い合わせと見学を申込みください

不登校や特別支援学級から進学できる 『様々な特別な高校の例』

- ①公立の定時制高校や単位制高校
☆新規：インクルーシブ枠
- ②特別支援が必要な生徒を受け入れてくれる私立高校
- ③通信制高校（サポート高校）
- ④専修学校（通信制＋専門学校）

①公立高校 特別支援対応校例 (定時制・単位制・インクルーシブ枠・通級)

- 定時制高校・・・◎安い ○4年制も有
(今は、“夜間”とは限らない)
- 単位制高校・・・◎安い ◎登校が少
(学校によって様々な仕組み)
- インクルーシブ枠
(通常の高校に特別枠が数名ある)
- 通級・・・小中と同様の制度が高にも
(まだまだ見切り発車のところがある)

②私立高校 特別支援対応校例 (実質少人数で丁寧な支援・指導)

- 支援学級や内申点がなくても受け入れOK
- 卒業後の推薦枠を多く持っている
- ※高校から中学校に事前の説明に来ている
- ※中学の先生に問い合わせれば教えてもらえる

(例)

本当の定員は1クラス40名であるが・・・
実際は20名程度で手厚い支援が受けられる

③通信制高校の例

(たくさんの支援が必要な生徒も受け入れ可)

- 出席日数に対して理解がある
- 74単位で高卒という、少ない学習内容
- 少人数・個別中心の指導
- ※「スクーリング」には参加する必要あり
- ▲学費が通常の高校の二倍近く必要になる

・通信制高校行っても色々なタイプがある
※このあと詳しく説明します

③通信制高校の例(具体例①) (ほとんど登校しないネット型通信制高校)

- 自宅に引きこもっている生徒も参加可能
- 学習時間も融通がきく
- サポート料金(授業料)が安い
- 自宅が郊外でも通学時間が必要ない
- 全国様々な通信制高校から選択できる
- ▲卒業後の進路が見つかりにくい
- ▲最低限出席が必要なスクーリングはある？

③通信制高校の例(具体例②) (登校するサポート高校型通信制高校)

- 個別・少人数のサポートを受けて授業
(※支援学級の支援と同じイメージ)
- その子なりの登校スタイル
(週1コース・週3コース・毎日コース)
- 卒業後の進路が見つかりやすい
- 放課後等デイサービスと合わせた支援が可
- ▲サポート料金(授業料)が高い？
(※サポート校により各種割引制度有)

④専修学校(高等課程)の例 (専門学校と通信制高校が合体！)

- 「調理」「美容」「商業」「洋裁」「工業」
など本人の興味のある内容が、学べる
- 高卒資格と専門学校資格のW卒業証書
- ▲受け入れはするが・・・少人数指導は難しい

※朝から毎日、ぎっしり授業が入っている
▲学費が通常の高校の二倍近く必要になる
→(※専門学校の学習も入るため)

入学できることより「卒業できる」学校か？ 『卒業後の進路は大丈夫か？』を考える

《進路選びのポイント》

- ①入学試験は何か(学力試験の有無・面接)
- ②進級・卒業の条件
(期末試験の有無・卒業単位数74~110)
- ③先生の専門性(どんな先生がいるのか)
- ④出席日数が一定量必要な学校なのか
- ⑤少人数・個別対応をしてくれる学校か？
- ⑥卒業後の進路や就労の面倒を見てくれるか
- ⑦授業料がトータルいくら必要か？

高校を卒業した後について (卒業証書の紙切れだけでは意味が無い)

- 大学・短大へ進学する→推薦制度も有！
 - 専門学校へ進学する
 - 就職する
- 上記の3つに行くことができればよいが・・・
- 究極の福祉サービスとして・・・生活介護
 - 就労移行支援事業
 - 就労定着支援事業

ご清聴ありがとうございました



オススメ ほめる育て方や進路についてわかる本！

- ①特別支援教育って何？
 - ②特別支援が必要な子どもの進路の話
 - ③特別支援が必要な子どもの「就労・進学・進路」相談室
 - ④特別支援が必要な子どもの高等学校進学の話→※新刊
- WAVE出版→書店・アマゾン等で購入可能！

